

<福島県知事賞>

福島未来をつくる税

会津坂下町立坂下中学校

3年 伊藤 一輝

2011年、3月11日、福島未来が閉ざされた。

震災後の福島は、原発問題やたびかさなる風評被害等で以前のような活気を失ってしまった。夢や希望、県外からの観光客、すべてが目の前から消えようとしていたが、税という1つの希望が目の前に現れた。

税といっても消費税や固定資産税ではない。復興特別所得税だ。所得税と書いているので所得税であることに間違いはない。具体的にどういうものなのだろう。この税の納税義務者は、個人、法人を問わず所得税を納める義務がある人全員で、課税対象だが平成25年から平成49年までの期間である。この税の計算方法もお伝えしよう。復興特別所得税＝基準所得税額×2.1パーセントだ。そんなに難しくもないだろう。この努力が、福島に活気を取り戻す大きな一歩なのだ。

しかし、税だけで本当に活気を取り戻せるのだろうか。税、つまりお金は勿論大切だ。福島県の災害復旧費だけでも、1兆7145億円もある。これだけのお金があっても、風評被害等は、無くならない。何処だろうか。税の力以上に強い力があるのではないか。答えは、すぐにでた。人と人とのつながりだ。

人と人とのつながりとは、具体的に何であろうか。そのつながりの最たるものは、地域のつながりだと思う。地域のつながりがうまくいけば、地域に活気があふれるだろうし、その活気がとなり町へ、そのとなりへと伝染していくだろう。その間には、必ずと言っていいほどお金が関わってくる。そのお金は何か。それは税だ。

税と活気の関わりは、何だろうか。活気とは私が思うに、県外や海外などから人が来てくれることだと思う。そして、ここに税が関わってくる。県外や海外から人が来るということは、お金を使っていく。宿や土産などで。そこには必ず税がついてくる。その税で町や県の経済がうるおう。その連鎖が起きることによって、町から県から地方から国へと広がっていくのだ。その連鎖の起こすきっかけが、福島であったらどうだろう。風評被害も原発問題も早期の解決につながるだろう。そうなれば、福島に活気がみなぎる。これは夢物語かもしれないが、実現不可能ではない。きっと実現できるはずだ。

最後に、福島は税によって復興が成り立っている。でも、平成49年でそれも終わってしまう。それまでに、活気が取り戻せるのか。私は、税を正しく理解し、活用できる大人になりたい。それが私が福島にできる事だと思うから。